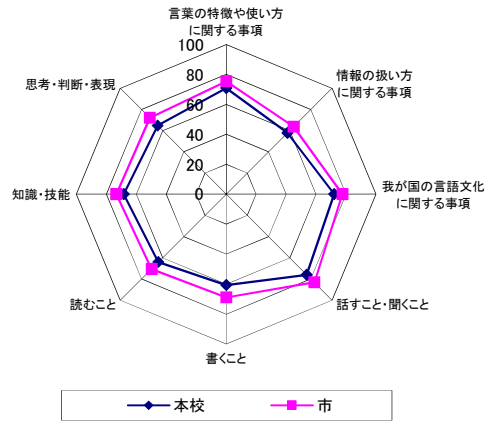


宇都宮市立国本中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	70.9	75.4	68.3
	情報の扱いに関する事項	57.9	63.9	58.0
	我が国の言語文化に関する事項	72.1	77.6	69.1
	話すこと・聞くこと	76.1	83.2	81.6
	書くこと	60.6	68.9	58.6
	読むこと	64.1	70.5	65.7
観点別	知識・技能	68.4	73.4	66.2
	思考・判断・表現	64.8	72.2	65.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

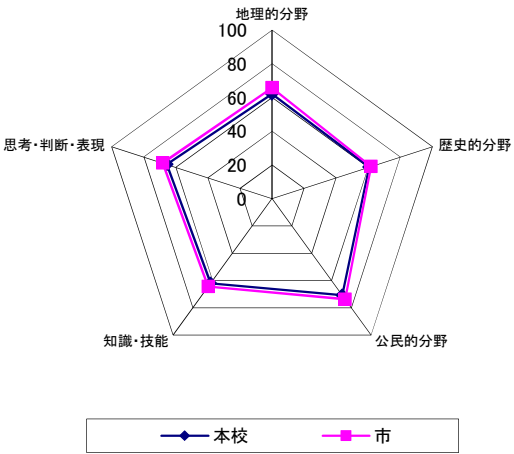
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○本校の正答率は参考値を2.6ポイント上回っている。また観点別の「知識・技能」でも参考点を2.2ポイント上回っている。 ○朝の読書で言葉に親しむ習慣や補助教材を使っている漢字の書き取り学習が結果に結びついたと考えられる。「備える」の書きは市の正答率を0.2ポイント上回った。 ●本校の正答率は、市の平均正答率を4.5ポイント下回っている。 ●極端に「ゆる(やか)」と「もよお(す)」の読みが低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・3年間を見通した文法学習のため、繰り返し問題を解き復習し、達成感を積み上げさせることで苦手意識をなくしていく。 ・漢字の読み・書きとともに既習漢字がうろ覚えで普段の生活で使いこなせていない傾向がある。授業の振り返りシートで日常的に既習漢字を使う機会を設けることで定着を図る。 ・言葉に親しむ習慣を身に着けるため、朝の読書の継続を学校全体で取り組みたい。
情報の扱いに関する事項	○本校の正答率は参考値と同等であった。 ○多くの情報から必要な情報を取捨選択し、自分の考えと合わせて再構成していくという授業を昨年度から何度か実施した結果が表れたものと考えられる。 ●本校の正答率は、市の平均正答率を6ポイント下回っている。 ●特に「情報と情報との関係について理解し、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している」について市の平均を8.1ポイント下回っている。書くことへの不安がある生徒がいると考えられる。	・多くの情報を比較・整理しながら、それらの関係性を考えて論理の展開を捉えるなど、説明的文章を的確に読み取る訓練を、短いものからだんだんとスキルアップして行っていく。 ・情報との関係を捉える読解の訓練をしながら、多くの情報を比較・整理しながら、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	○本校の正答率は参考値を3ポイント上回っている。 ○古典への苦手意識が薄らいできたことが推察される。 ●本校の正答率は、市の平均正答率を5.5ポイント下回っている。 ●特に「歴史的仮名遣いについて理解している」は市の平均を8.5ポイント下回っている。	・歴史的仮名遣いや古語などの古典学習の基礎を再確認し、古典を読む訓練を継続的に行っていく。 ・この領域について完答している生徒も多いので、読解への自信をさらに付けさせ、古典への苦手意識の解消を図る。
話すこと・聞くこと	○全領域で一番正答率の高い分野である。聞き取りの小テストを定期的実施している効果が少し見られる。 ●本校の正答率は、参考値を5.5ポイント、市の平均正答率を7.1ポイント下回っている。 ●「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している」について、市の平均を13.7ポイント下回っている。	・聞き取りの小テストを定期的に行うことで、正確にメモを取ったり、話を正確に聞き取る力を身につけさせる。 ・授業で話し合い活動を定期的に取り入れ、相手の伝えたいことを正しく聞き取った上で自分の意見を分かりやすく述べられるよう指導する。 ・豊かな表現方法に必要な語彙を増やしたり、相手に伝わりやすい効果的な話し方の工夫についても指導していく。
書くこと	○本校の正答率は参考値を2ポイント上回っている。また昨年度の「とちぎっ子」と比較すると、市の平均正答率との差は5.6ポイント縮まった。 ●しかしながら本校の正答率は、市の平均正答率を8.3ポイント下回っている。 ●全体的に市の平均を下回っているが、特に「自分の考えを明確にして書いている」は11.7ポイントの差が出ている。「書くこと」領域での無回答が一定数いる。	・表現したことが他者に受け入れられ、共有されることの喜びを感じられる授業を定期的に展開したことが「書くこと」への苦手意識の軽減へと繋がったと思われる。このような機会を今後も設ける。 ・原稿用紙の使い方、示された型どおりに書く練習など基本的な書き方を徹底する。
読むこと	○説明的な文章、文学的な文章のどちらでも無回答率は低かった。 ●本校の正答率は、参考値を1.6ポイント、市の平均正答率を6.4ポイント下回っている。 ●「文章の表現の仕方について評価している」について、市の平均を9.1ポイント下回っている。	・説明的な文章、文学的な文章のどちらとも論理の展開の仕方について捉えられている。しかし、そこから自分の考えを広げたり深めたりすることには結び付いていない。思考力、想像力を豊かにするために、読書による疑似体験を励行する。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	62.0	65.7	56.7
	歴史的分野	60.5	61.7	54.8
	公民的分野	70.8	73.8	73.3
観点別	知識・技能	62.0	64.5	59.5
	思考・判断・表現	65.7	68.2	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

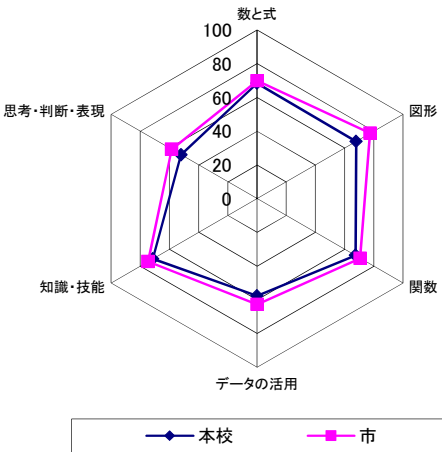
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○「九州、中国・四国、近畿地方の工業に関する特色」「近畿地方の文化の特色を資料から考察する」という問題は市の正答率を上回り、「風力発電」の問題は正答率が96.5%と高かった。 ○全体の正答率は、参考値を5.3ポイント上回った。 ●「九州、中国・四国、近畿地方の面積や第一・第二次産業の特色を考察する」という思考・判断・表現に関する問題は正答率が50%を下回った。 ●全体の正答率は、市の正答率を3.7ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ワークの復習や小テストを実施し、基本的な重要語句の反復学習を行う時間を多くとり、知識・理解の定着が更に向上するよう努める。 ・記述問題の正答率は60%を越え、参考値を上回っているが、市の正答率よりは低いいため、地図やグラフ等の資料を用いて文章でまとめたり発表したりする学習場面に更に増やす。
歴史的分野	○江戸時代の「大阪の繁栄についての考察」「享保の改革についての考察」の問題は市の正答率を上回った。また「江戸幕府の対外政策」「江戸時代の文化」という思考・判断・表現に関する問題は正答率が85%を上回った。 ○全体の正答率は、参考値を5.7ポイント上回った。 ●江戸時代の「蘭学について」の問題の正答率が24.8%と極端に低かった。 ●全体の正答率は、市の正答率を1.2ポイント下回った。	・ワークの復習や小テストを実施し、基本的な重要語句の反復学習を行う時間を多くとり、知識・理解の定着に努める。 ・記述問題の正答率は60%を越えているが、市の正答率や参考値より低いので、歴史に関する史料等を参考に、自分の考えを文章でまとめたり発表したりする学習場面を増やす。
公民的分野	●「最高法規である日本国憲法」の問題の正答率が12.4%、「公共の福祉」の問題の正答率が21.2%と極端に低かった。 ●全体の正答率は、市の正答率を3.0ポイント、参考値を2.5ポイント下回り、他の2分野と比べて正答率が低かった。	・公民的分野は3学年の7月頃から学習する内容のため、ワークの復習や小テストでの基本的な重要語句の反復学習だけでなく、重要語句の書き取りや意味調べ等を宿題にするなど、学習時間を多くとり、知識・理解の定着に努める。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	68.4	69.9	66.4
	図形	67.9	77.4	68.1
	関数	67.4	70.6	60.8
	データの活用	57.6	62.7	54.2
観点別	知識・技能	71.3	74.6	70.3
	思考・判断・表現	52.1	58.4	43.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

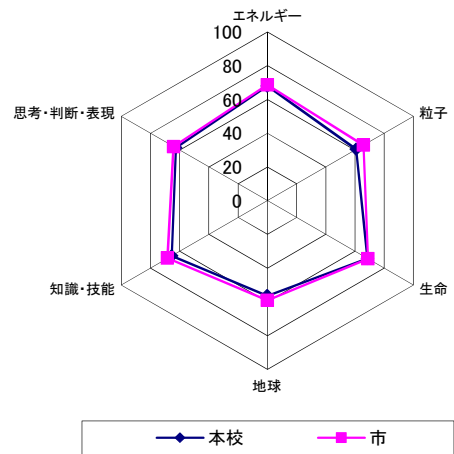
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○式の計算の問題1(1)、2次方程式の問題6(2)では市の平均を2ポイント以上上回る正答率だった。 ●式の計算3、連立方程式5(1)の正答率が、市の平均を5ポイント以上下回っている。計算のルールが理解できていない生徒が多いことが予想される。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算を苦手としている生徒が多いため、多くの問題に挑戦できるよう準備する。 ・計算に苦手意識を持っている生徒も多いため、レベル別に課題を準備するなどして、少しでも計算に向き合える時間を作るように指導していく。
図形	●すべての問題の正答率が市の平均を下回っていた。問題から情報を読み取ることを苦手としている生徒が多いことが予想される。	・図形の性質や、証明の手順などの知識の定着が不十分であることが考えられる。問題演習や復習の時間を通して、少しずつを定着させるよう指導していく。
関数	○比例・1次関数の問題8では、市の平均を6.9ポイント上回る正答率だった。 ●グラフに囲まれた部分の面積を求める問題10では、市の平均を8.1ポイント下回る正答率だった。融合問題に苦手意識を持つ生徒が多いと予想される。	・利用の問題では、文章、表、式、グラフなどが結びついて理解できていない現状がある。式、グラフ、表などから必要な情報を読み取れるよう、反復練習を行う。特に、式に値を代入して値を求める問題では、数と式の領域にもつながる内容なので、時間をかけて指導していく。
データの活用	○データの分析も問題18(1)は市の平均を上回る正答率だった。また、確率の問題12(1)が80%を超える正答率だったことから、組み合わせを理解し、正解にたどり着いた生徒が多いと予想される。 ●箱ひげ図の問題18(2)では市の平均を17.5ポイント下回る正答率だった。言葉の意味が理解できていないため説明を苦手としている生徒が多いと予想される。	・データの活用を学習する際、語句が多く、混同しやすいため、それぞれの意味を理解させようと、多くの問題練習に取り組むよう準備する。また、1年時のデータの活用の単元はコロナ休校が重なり、演習不足の面もある。年度末に学習する単元でもあるため、既習事項の復習をする時間を捻出し、学習内容の定着が図れるように指導していく。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	68.0	68.7	63.6
	粒子	60.8	65.7	64.2
	生命	68.6	68.9	64.4
	地球	56.4	59.2	54.3
観点別	知識・技能	65.4	68.4	64.4
	思考・判断・表現	62.7	64.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

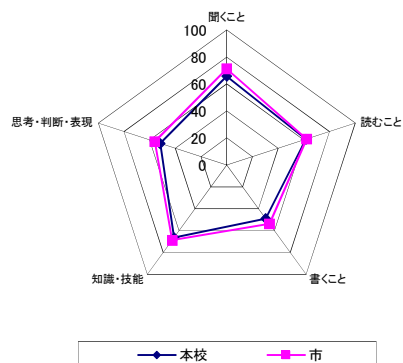
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○音や電流と磁界についての正答率は、市の平均より5ポイント以上高い設問もあり、基礎的な内容については理解している生徒が多い。 ●物体の運動に関する問題の正答率について、全体的に市の平均をやや下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・演示実験や生徒実験を豊富に取り入れ、目の前の現象を深く考えさせる習慣をつくる。 ・実験結果のうち一部を棄却する理由や、数値を求める問題を解くことで、論理的に考える力を身に付けさせる。
粒子	●正答率は、全体を通して市の平均を下回っていることから、多くの生徒が困難を抱えている分野であることがわかる。 ●蒸留や分解の実験に関する問題の正答率は、市の平均よりも10ポイント下回っている。	・生徒の到達度に合わせて、基礎的内容の整理などのプリント演習を行う。 ・原子を模したモデルを使い、化学反応を動的に理解させることを心掛ける。 ・実験を行う前に目的やねらいを整理し、必要感をもって生徒実験に取り組ませる。
生命	○アミラーゼや花のつくり、無性生殖に関する設問の正答率は、市の平均をやや上回っている。 ●人間のからだのつくりに関する設問の正答率は市の平均を下回っている。 ●ルーペの使い方に関する問題の正答率が、市の平均に対して低い。	・実験の材料が自分の身体の一部で合ったり、自然の中で取りに行ったりするような内容は定着度が高い。これからも身近な題材を基に授業を進めていくようにする。 ・実験器具の使い方について、注目させながら説明したり、全員が実験器具に触れるように工夫していく。 ・動画などの視聴覚教材を用いて、目で見ることができない内臓について関心を持たせる。
地球	○花崗岩が取れる採石場がどのようにできたか推測する問題の正答率は、市の平均を4ポイント上回っている。 ●火山の形とマグマの特徴について、天気に関する設問の正答率は市の平均をおおむね下回っている。	・実験ではスケールが大きく実物を見せられない内容について、定着度が低いと考えられる。簡易に準備できる溶岩や化石などを見せ、興味を持たせていく。 ・内容によっては、視聴覚教材を見せたり、クロームブックを使った調べもの学習を行うことで、より深い理解を目指す。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	65.7	71.2	65.4
	読むこと	61.5	62.1	56.9
	書くこと	48.9	53.8	42.5
観点別	知識・技能	66.4	68.8	64.7
	思考・判断・表現	51.8	56.1	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、市の平均よりも5.5ポイント低い。 ○日常的な話題について概要や必要な情報を聞き取る問題では、いずれも参考値を上回る正答率であった。また、英文を聞き、その概要を捉えて自分の考えを英文で書く問題でも、参考値を14.0ポイント上回った。授業の中で、目的・場面・状況を設定した言語活動に継続的に取り組ませたことで、話し手が伝えたい内容を考えながら聞き取ろうとする態度が育成されてきていると考えられる。 ●前年度実施のとちぎっ子学習状況調査の結果からも課題となった、「対話の内容を聞き取り、適切に回答する表現を選択する問題」では、今回の調査でも、ほぼ全ての問題で市の平均・参考値を下回った。様々なリスニングに取り組ませる時期を早める必要があると考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ○今後も、目的・場面・状況を適切に設定した言語活動を通して、話し手が何を伝えたいのかを考えながら聞き取らせる活動を充実させていく。 ・年間を通して様々な状況でのリスニングに取り組ませ、様々な表現に慣れ親しませていく。 ・英文の概要や必要な情報を聞き取る力を基に、聞き取った内容に対して自分の意見を英語で表現したり、日常的话题について英語で自分の考えを表現させる活動を継続的に行う。 ・課題の見られた形式のリスニング問題では、内容を聞き取るだけでなく、「選択肢から適切な回答を選択する」ことも求められるため、選択肢を正しく理解するための「読むこと」の視点からの指導を意識するなど、技能を統合した課題に取り組ませていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同程度である。 ○語形・語法・語彙の知識・理解を問う問題では、6問中3問が市の平均・参考値を上回る正答率であった。唯一、市の平均・参考値のいずれの正答率も下回ったのは、疑問詞と不定詞の組み合わせの問題で、正答率は最大4.8ポイント下回った。授業の中で、繰り返し品詞と語順について指導してきたことで、多くの生徒に語形・語法の知識が身についていると考えられる。 ○様々な英文の読み取り、長文の読み取りでは、ほぼ全ての問題で参考値を上回った。	・語形・語法・語彙の知識の定着を図り、活用できる技能を身につけさせるため、今後も、品詞と語順について継続して指導していく。 ・読み取った英文について、内容をふまえて英文を完成させる活用の問題では、正答率が25.7ポイント(市平均27.7、全国正答率15.3)と、全国的に課題となっていることから、聞くことと同様、読み取った内容に対して自分の意見を英語で表現させたり、簡単な話題について英語で自分の考えを表現させたりするなど、領域を横断した活動の設定の工夫を図る。
書くこと	平均正答率は、市の平均よりも4.9ポイント低い。 ○場面に応じて書く英作文、3文以上の英作文の問題では、参考値を全て上回った。 ●単語の並べ替えによる英作文では、4問中3問が市の平均を下回った。文法内容は全て中学2年次に学習したもの(being to, 不定詞, 過去進行形, 第4文型)である。 ●スマートフォンの使用に対する自分の考えや意見を書く、3文以上で英作文する設問に対しての無回答の割合は、29.4ポイント(市平均24.2)と、約3割であった。この割合は、前年度実施のとちぎっ子学習状況調査の英作文の無回答率とほぼ同程度である。無回答率が増加していないことは、問題の難易度を踏まえると概ね良好な状況であると言える。	・英作文における無回答率は、意欲によるものだけでなく、基礎・基本的な文法の知識の定着の有無によるものも大きい。各学年で各単元の学習内容の一層の定着を図るとともに、既習の学習内容の復習を計画的に取り入れ、知識の確実な定着を目指す。 ・日々の授業において、英作文への取組において支援が必要な生徒を把握し、例文を書き写させるなど、理解度に応じた支援を行えるよう、授業展開・単元の指導計画の工夫を図る。

宇都宮市立国本中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
宇都宮モデルに基づく授業改善	生徒にとって「分かる授業」を展開するために、宇都宮モデルに基づき、めあての明示やペアワーク、グループワークなどの学習形態の工夫、授業の終末での学習内容の振り返りを全教科で実践している。	「学校の授業がどの程度分かりますか」の質問では、肯定割合が1学年で77.4（市83.0、本校昨年度84.6）ポイント、2学年で81.0（市80.9、本校昨年度79.5）ポイント、3学年で78.6（市81.1、本校昨年度81.2）ポイントと、1、3学年で市平均及び本校昨年度肯定割合を下回った。
学びに向かう力の育成と学力の向上	主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICTの効果的な活用の工夫を行った。また、定期テスト前の2週間、「家庭学習がんばりの記録」やクロームブックを利用し、家庭学習の時間を記入させることで、生徒自身の学習への取組状況を可視化し、個に応じて指導助言を行っている。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の質問では、肯定割合が1学年で55.7（市59.9、本校昨年度65.4）ポイント、2学年で48.6（市61.6、本校昨年度49.6）ポイント、3学年で62.5（市72.0、本校昨年度71.8）ポイントと、全学年で市平均を下回った。 「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」の質問では、肯定割合が1学年で74.8（市70.5）ポイント、2学年で61.9（市67.7）ポイント、3学年で74.1（市73.1）ポイントと、1、3学年で市平均を上回った。
家庭学習における学習内容の復習の習慣化に向けた指導の工夫	全学年で家庭学習の習慣化に向けた取組を行っている。また、復習するポイントを生徒が整理しやすいよう、各授業で、その日の学習内容の振り返りを行っている。	「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか（塾、家庭教師含む）」の質問では、平日「ほとんどしない」の割合は、1学年で1.7（市6.6、本校昨年度19.2）ポイント、2学年で9.5（市9.3、本校昨年度21.4）ポイント、3学年で0.9（市2.8、本校昨年度1.7）ポイントであった。いずれの学年においても良好な結果となっている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

前年度から継続して、①教員の授業力の向上、②学びに向かう力の育成、③家庭学習の習慣化の3点について、具体的な取組を行ってきたが、「学校の授業がどの程度分かりますか。」の質問項目では、1学年77.4（市平均83.0）ポイント、2学年81.0（市平均80.9）ポイント、3学年78.6（市平均81.1）ポイントと、1学年、3学年においては市平均の肯定割合を下回っていることから、①～③の継続した取組と、日々の教材研究と各教科の授業改善に取り組んでいく。

「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか。」の質問項目において、平日の学習をほとんどしない生徒が3学年では0.9（本校昨年度1.7）ポイント、2学年では9.5（本校昨年度21.4）ポイント、1学年では1.7（本校昨年度19.2）ポイントと、どの学年も昨年度と比較して非常に少なくなっており、大幅な改善が見られた。

「授業で習ったことを、その日のうちに復習している。」の質問項目では、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した生徒の割合は1学年で49.5ポイント、2学年で74.3ポイント、3学年で66.1ポイントであった。本校は2学年で低迷しがちだが、例年3学年進級とともに改善される傾向にあることから、新入生に「家庭学習を行う習慣」「家庭学習で復習をする習慣」をしっかりと身に付けさせていくことを校内で共通理解する。

これらが継続的な成果となるよう、次年度も地域学校園内の小学校と連携を図る。